

書 燈



(右) 文化ホールとの連携企画
“inseparable 「変半身 (かわりみ)」
プレトークイベント村田沙耶香×松井周”
(左) 本を届ける vol.2～福田和代氏講演会
「読まなきゃ！100年先も本はある？」

図書館の「力」

荒井 俊明

図書館に赴任して、約1年半が経過した。私が中央図書館に足を踏み入れたのは大学生の時以来だ。恥ずかしながらそれほど疎遠な存在だった。

思い返せば、私は神戸生まれ神戸育ちだが、市立図書館との思い出がほとんどない。昔から読書は好きだが、私にとって市立図書館は、近いようで、少し遠い存在だったのかと思う。

一方で、最近、図書館のもつ「力」を感じる出来事があった。神戸市小学校教育研究会が発行している「はぐるま」という作文集があり、小学生時代に掲載していただいたことがあった。約35年前の作文だが、ふと思い立って図書館で探していただいたところ簡単にその冊子を発見することができた。私の作文の出来はともかく、保存状態も非常によく、図書館が自分の歴史を大切に記録してくれているように思えて正直感動を覚えた。収集・整理・保存を仕事とする図書館では当然なのかもしれないが、これが図書館たる所以なのだと思っていて密かに感心している次第である。

現在、市立図書館は過渡期に入っている。他都市でも様々な図書館が生まれている。デザインに優れ、美しく、飲食もできる、まるで居住空間のような居心地のよい図書館などバラエティーに富んでいる。このような動きは、図書館へのニーズが非常に多様化しているからであって、それに応えていくことは、

当然のことなのだと思う。

しかし、図書館へのニーズが多様化しても、変わらないこともあると思う。それは、図書館の主役は「本」とであるということである。図書館は、本を介して知識や記録の集積に触れることができる一方で、新しい知識や可能性に出会える入口でもあると思う。「新しいこと」をする時は非常にエネルギーを要するが、本は比較的容易な入口の一つであり、あらゆる分野と親和性が高い本を備える図書館には、まだ活かされていない「力」が眠っているような気がしてならない。

私の勝手な考えだが、市立図書館も、まだその潜在する「力」を活かしきれていないと思っている。言葉を変えれば、図書館の「力」をどのように引出せばよいのか、皆が試行錯誤している。いま本当に求められていることの一つは、図書館からの様々なアクションではないかと思う。よく引合いに出される海外の図書館との最も大きな違いはこの点ではないかと感じている。

現在の市立図書館は、予算も人員も厳しい上、次々に新しい図書館へのニーズが押し寄せている。このような時に図書館に携われることは貴重な経験だと思う。図書館のために今の自分に何ができるか、これからも問い続けていきたい。

(総務課担当係長)

連携イベントで見えるもの

総務課担当課長 鎌田 寛子

1. 図書館活動における展示や行事

神戸市立図書館では、これまでも多くの資料展示や行事を行ってきた。資料展示は、図書館が収集した資料を使って特定のテーマに関心を喚起し、資料利用を促進するのが目的である。普段は目に触れにくい資料を体系的に紹介することで、図書館が持つ資料の豊かさを示す機会でもある。また、行事は児童サービスを中心に、おはなし会、工作会、映画会を定例で実施するほか、成人向けの講座や講演会等も行ってきた。図書館はこれら展示や行事により、本を借りる場所としてだけではなく、本や人や興味あるテーマに出会う場所として地域の人々に文化的な楽しみを提供している。

神戸市立図書館では近年、外部と連携した展示や行事が増えた。図書館から連携を求めたものもある一方で、図書館の潜在的な集客力に注目した市の他部局や他団体から、施策や活動のPRのための連携展示を持ちかけられることも多くなった。

2. 最近の連携展示・イベント例

ここでは今年度の連携事例を紹介する。いずれも中央図書館での連携展示やイベントであるが、各地域図書館においても地域のNPOや地元商店街、社会教育施設などと数多く実施しており、機会があればこちらについても紹介したいところである。

事例1：KIITOの巡回展示

『“KOBE”を語る～GHQと神戸のまち』

【企画】デザイン・クリエイティブセンター神戸（KIITO）が平成30年度に開催した同テーマの展示の一部を借用して展示したもの。当時と今を比較した街の写真や、戦後の神戸を実際に知る人から聞き取ったお話やキーワード解説により構成したパネルを展示。

【経緯】KIITOで展示中のパネルを見た中央図書館職員が、図書館でより多くの人に見てもらおうべきと考え、企画調整局を通してKIITOに申し入れ実現した。KIITOが巡回展示用にパネルを仕立て直し、チラシデザインやポスターを作成。図書館は広報と会場設営を担うこととした。



【日時・場所】令和元年8月14日(水)～8月31日(土)・中央図書館1階ロビー

【内容】KIITOならではのデザイン性の高いパネルと戦後まもない神戸の姿というテーマが相まって、来館者からは非常に好評であった。老若男女問わず多くの人が足を止め、じっくりとパネルを眺めていた。図書館が所蔵する関連資料への閲覧希望もあり、展示から図書資料へという興味・関心の流れができた企画となった。

美しいパネルをどう展示するかで担当者は苦労したが、結果として新しい展示スタイルが生まれた。

事例2：文化ホールとの連携企画

『inseparable「変半身(かわりみ)」』プレトークイベント村田沙耶香×松井周』



(イベントチラシ)

【企画】12月に神戸文化ホールで開催される演劇の共同原案者、芥川賞作家村田氏と岸田國士戯曲賞作家松井氏によるプレトークイベント。

【経緯】文化ホールの提案企画。会場を図書館とすることで双方の利用者の利用促進につなげる狙いがあった。演者への連絡・謝礼、ポスター・チラシ・アンケート等は文化ホールが、募集、会場設営は図書館が行い、広報や当日の差配などは共同で行った。

【日時・場所・定員】令和元年9月14日(土)15時～16時30分・中央図書館閲覧室2・定員90人

【内容】当日の参加者は67人で、日頃の図書館の企画とは異なり、若い人の参加が多かった。文化ホール側も今後の連携に関して好感を抱かれたようだ。アンケート結果には「有名な小説家や演出家の話を聞くことは初めて」「こじんまりしたスペースだったので、距離感が近く良かった」などがあった。連携のメリットは、文化ホールの人脈やノウハウ等を活かし、図書館単独では不可能だったイベントを開催できたことである。デメリットとしては単独でないため制約が多く、チラシの構成や演者との調整に手間取ったことである。今後はこの経験を活かし、近隣の文化施設等との連携も検討できればと考える。

事例3: 本を届ける vol.2

『読まなきゃ！100年先も本はある？』
(福田和代氏講演会)

【企画・連携】昨年度から開始した書店や出版界との連携で行う企画「本を届ける」の第2弾。「神戸」をキーワードに、昨年度の講師である神戸新聞社松岡健氏と、神戸在住のミステリー作家福田和代氏との対談形式での講演会。福田氏が作成した「神戸書店マップ」を当館に配布依頼されたのが縁で、今回のご登壇となった。

【日時・場所・定員】令和元年11月9日(土)14時～15時30分・中央図書館閲覧室2・定員80人

【内容】福田氏の工学部卒業後SEを経て作家という異色の経歴、入念な取材に基づくリアリティ溢れる作品の裏側、ご自身のもう一つの軸である読書推進活動についてご講演いただいた。身近な書店の減少、何を読めばよいかわからない人、そのような状況でも、本は形を変えても残り、その楽しみを交歓する場が求められるというお話であった。

当日の参加者は50人。対談相手の松岡氏は巧みな進行で、福田氏の綿密な考察と和やかな語り口、魅力を引き出した。その結果、アンケートでも対談形式が聞きやすかったと好評であった。また、今後もこのような本に係る企画をと望む声があった。来年度も vol.3 「本を届ける」として、「神戸」を切り口に、出版文化を応援する企画を検討したい。



3. 外部との連携がもたらすもの

連携することで人がつながり、サービスがつながり、機能が補完される。資料展示や行事に広がりや深みが増すだけでなく、図書館サービスへの新たな視点が生まれる。結果として新たな利用者層の獲得も期待される。

連携はサービスを展開する上での一つの手段である。図書館が主体的に外部との連携を模索、企画、立案する中で、地域の課題に対する図書館の限界や可能性が自ずとあぶり出される。図書館は何ができるのか、司書としての自分のスキルはどのように役立つのかを考える契機となる。連携に直接関わるか否かは別として、自らのアンテナの感度を上げ、図書館サービスの可能性に思いをめぐらせたい。

〈新規採用職員エッセイ〉

居場所として

川村 凜太郎

今年の4月から市民サービス係に配属となりました。昨年度までの3年間は中高一貫校に学校司書として勤務し、学生時代は大学図書館でアルバイトをしていました。神戸市立中央図書館は学校の図書館とは全く違い、老若男女を問わず様々な方が利用されるため、日々新鮮さを感じながら1階のカウンターに座っています。

この仕事をしていると人からよく「やっぱり子供の頃から図書館で働くのが夢だったんですか」と聞かれるのですが、全くそんなことはなく、中高生の時は自分が司書になるとは思ってもみませんでした。そんな私が司書を目指すきっかけとなったのは大学生の時に受けた講義で「図書館は第三の居場所(サード・プレイス)としての役割を担っている」という話を聞いた時でした。これはアメリカの社会学者レイ・オルデンバーグ(1932～)が盛んに論じている考え方で、人にとって第一の居場所は家庭、第二の居場所は職場や学校などで、第三の居場所は「創造的な交流が生まれる憩いの場」なのだそうです。

カウンターで日々利用者の方と接していると、中央図書館には多くの方が「第三の居場所」を求めて来ておられることがわかります。図書館に来る目的は「知りたいことがある」「ホッと一息つきたい」「何か楽しみを見つけたい」など人それぞれだと思います。どの資料を提供するのが最も適しているかを考えるレファレンスや、ニーズをとらえて必要とされている本を選ぶ選書、楽しく過ごしてもらうための行事の企画など、図書館で行われている全ての仕事が、居場所として機能することにつながっていると感じます。

今の私の目標は、資料についての理解を深めること。そして、カウンターでできる限り多くの利用者の方と接し、たくさんの実践を積んで、的確なレファレンスができるようになることです。そしてそれが利用者の方にとって良い居場所を作ることにつながればいいなと思っています。

まだまだ分からないことばかりで戸惑うことが多いですが、早く一人前の司書になれるように頑張っていこうと思います。

(市民サービス係)



—BRANCH 神戸学園都市での予約図書受取サービスの開始—

垂水区北部の小東山手 2 丁目にある商業施設 BRANCH 神戸学園都市内に、8 月 16 日（金）に予約図書受取コーナーを開設した。商業施設内に設置するのは初の試みとなる。運営は NPO 団体に委託している。（総務課担当係長・村井）

—返却ポストのラッピング—

JR 灘、JR・山陽電鉄垂水、地下鉄名谷の各駅設置の返却ポストに装飾ラッピングを施工。市所属のクリエイティブデザイナーによる、動植物を配した愛らしいデザインとなった。（総務課担当係長・西山）

—楽天技術研究所サマーインターン 2019—

本市と楽天株式会社との包括協定に基づく、市内大学生の人材育成の一環として、同研究所のテクノロジーを活用し、神戸の課題解決に資するソリューション技術開発等を目的としたインターンシップを実施、3 人の学生が参加した。中央図書館では来館者と“本との出会い”を促すため、読書の秋におすすめする本の書影や読者のコメントを一覧で紹介するデジタルサイネージシステムの実証実験を 9 月 10 日～16 日の間実施した。（利用サービス課長・阪本）

—KIITO（デザイン・クリエイティブセンター神戸）巡回展示「“KOBE”を語る～GHQ と神戸のまち—

KIITO より、GHQ 占領期と現在の比較写真や当時を知る人からの聞き書き等のパネルをお借りし、8 月 14 日～31 日の間展示した。（企画情報係・乾）

—文化ホールと共催“inseparable「変半身（かわりみ）」プレートイベント村田沙耶香×松井周—

12 月の文化ホールでの公演を前に、9 月 14 日にプレートイベントを行った。初の共催で 67 人の参加があり、盛況の内に幕を閉じた。（資料係長・棟安）

—講演会「少年少女の家」とオズボーン・コレクションのおはなし—

10 月 9 日開催。参加 93 人。梶原由佳氏に、トロント児童図書館の歴史、所蔵する貴重な児童図書についてうかがった。コレクションは、手にとって利用できるとのこと。歴代担当者の図書館への自負と愛情を感じた。（利用サービス課担当係長・間屋）

—本を届ける Vol. 2～福田和代氏講演会「読まなきゃ！100 年先も本はある？」—

中央図書館読書週間行事として作家の福田和代氏と神戸新聞社の松岡健氏をお迎えし、トーク形式の講演会を 11 月 9 日に開催。参加 50 人。福田氏の作家活動、創作裏話、本や出版を取り巻く現状、お勧めの本紹介など、充実の内容であった。（総務課担当係長・西山）

—夏休み期間中の行事—

◆中央図書館では夏休み特別おはなし会「こうべママのこわ～いおはなし会」の他、工作教室「夏だ！花火を打ち上げよう」や「ふしぎ新聞を作ろう」等の行事を開催。公民館との共催「バックヤード親子見学ツアー」では、親子 38 人が館内見学とブックコーティングを体験した。（市民サービス係・三木）

◆「絵本作家山本孝さん夏・まつり！」と題しイベントを開催。須磨図書館では区内在住の山本氏と一緒に身近な材料を使って“アブナイ”生物を作るワークショップを、三宮図書館は「絵本アブナイシリーズ」原画展を勤労会館で開催し、絵本の世界に触れていただける良い機会となった。東灘・灘・新長田・垂水・西の各図書館は、山本氏の作品の読み聞かせ等お話し会を実施。合わせて設置した顔出しパネルでは親子で写真撮影する微笑ましい姿も見られた。

◆おばけ屋敷に仕立てた館内でのおはなし会「兵庫図書館おばけやしき」や、北図書館のおはなし会&絵本の貸出「おばけライブラリー」など、夏の夜ならではの行事も好評であった。

◆北神図書館は、移転後初めての工作会となる「夏のジュエルオブジェを作ろう！」を商業施設エコー・リラと共同開催。真新しいブックラウンジが多くの子で賑わった。（企画情報係・乾）

—手帳—

人事	11.15	人事異動	() 内は前職
		岡田 宏二（都市局担当部長：(株)OM こうべ）	中央図書館長
		長谷川 達也（中央図書館長）	企画調整局担当局長：神戸医療産業都市推進機構参与
会議	7.17	近畿公共図書館協議会理事会総会	
	7.18・19	政令指定都市図書館長会議	
	7.25	神戸市立図書館協議会	
	9.17	兵庫県立図書館協議会	
	10.4	窓口担当者会議	
	10.25	中央図書館職員安全衛生委員会	
研修	9.3～9.6	新任図書館長研修（新長田・北・北神）	
	10.17	館内研修（「阪神・淡路大震災に学ぶ」）	
行事	7.29	「係生徒の集い」ビブリオバトル	
	9.13	神戸子ども文庫連絡会等との交流会	
その他	8.16	予約図書受取コーナー「BRANCH 神戸学園都市」開設	
	9.10	新西図書館の移転に関する整備事業優先交渉権者の決定・発表	
		= 台風による臨時休館 =	
	8.15	神戸市立図書館全館（台風 10 号により、正午～終日臨時休館とした）	